令和6年度 やよい幼稚園・保育園自己点検・評価（総括）

1. 学園理念

学園理念「心をこめて 心をつくして 心を伝える」に基づき、かけがえのない一人ひとりの心に寄り添い、個性を大切に教育を目指した。

2. 教育目標

- ・「心も体も健康で たくましく伸びゆく子ども」を目標に、一人ひとりの子どもの心に寄り添い個性に応じた援助をしながら、生活習慣や社会性を身につけるとともに、子どもの可能性、創造性を伸長する教育を目指した。また、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係にささえられた生活、友達と充分にかかわって展開する生活、さまざまに直接的な体験ができる生活を大切にしたい。

3. 本年度の自己評価

- ・概ね学園理念や園の運営、教育・保育方針を理解し園の教育・保育要領に基づいて教育・保育計画を作成し実践した。
- ・教職員間、ヒヤリハットや懸念される事項の情報交換を行い、できるだけ事故・怪我など未然に防ぐことができるよう配慮した。
- ・園児一人ひとりの状況や発達に合わせて教育・保育を行うとともに、必要に応じて関係機関と連携を図った。
- ・子どもへの指導は、子どもの状況、家庭状況に配慮して行った。特に、途中入園の子どもなどには、情緒の安定を図るため、信頼関係づくりを優先して関わった。
- ・園では給食を通して食育を行っている。年長くらいになると、準備や後片付けもスムーズになり、好き嫌いも軽減していく。しかし、3歳でまだ箸を使っていなかったり、立ち歩いたりするなど食事の基本を身に付けていない子どもが増加している。そのため、給食参観懇談のように他の子どもと比較しながら子どもの食事の様子を直接見ていただく機会はとても貴重なものであるため、今後ともたいせつにしていきたい。
- ・年々個性の強い子どもが増え、補助の先生をつけなければ活動が難しいところがあるが、保護者が子どもの育ちの遅れを認めたくない親もいる。そのため、日頃のコミュニケーションを大切にして、保護者との信頼関係を築いていきたい。また、中にはどうしても課題の共通認識を図れない保護者がいるが、心情的でデリケートなことでもあるので性急な対応はしないようにした。
- ・一部子どもや保護者の中でコロナ感染やインフルエンザの流行があったが、園は閉鎖することもなかった。運動会、やよい祭り、生活発表会などは保護者だけでなく、兄弟や卒園児、その他の家族や来賓などたくさんの来園者があった。

4. 保護者アンケート結果

- ・本園の教育・保育方針、内容について、全般的に理解を得られている様子が伺える。
- ・自由記述欄では、子どものお迎え時に子どもの様子を伝えてもらい有難いという感想がある中、保護者アンケートでは、保護者から園への話しやすさという観点は比較的评价が低かった。

5. 今後の課題

- ・子どもの成長を支えていくためには、保護者との信頼関係の構築も大切である。特に個性的な子どもが増えてきていることから、保護者との信頼関係がなければ、適切な教育は提供できない。そのため、今後はより一層、保護者に寄り添うとともに、より丁寧に当事者意識をもって対応して、信頼関係の構築に努めていく。
- ・特に、保護者の迷いや悩み、苦しみに共感しつつも、子どもたちを良い方向に導いていけるように、教育者として、常に誠実に対応していく。
- ・子どもが安心して生活していくために、感染症やヒヤリハットの情報を教職員間で共通認識をして、できるだけ事故を未然に防いでいく。
- ・教育は単なる専門知識や技術、経験だけで行われるものではない。むしろ、「人間がその人となりを通して行うもの」であるから、教師としての資質も重要な要素となる。そのため今後も研修会等への参加や自己啓発を促していく。また、専門職だけではなく、自らの人格を磨くことも目標に取り組んでいく。
- ・保護者には、日頃から子どもの姿を知らせながら、信頼関係づくりをし、課題の共通認識を持てるようにしていきたい。